

22号の クリエイターは どんな人?



今回の表紙と特集は、enocoのご近所さんでもある underonの堀口さんにお願いしてみたんや。
ちょっといろいろ聞いてみよ。



小倉ヒラク「日本発酵紀行」
(D&DEPARTMENT PROJECT) 2019年

堀口努さん underon.com

1996年デザイン事務所underon設立。大阪を拠点としブックデザインを中心にグラフィックデザインやアートディレクションなどいろいろデザイン。プロ野球をこよなく愛し某球団の勝敗によってデザインの出来が左右するとかしないとか。

enoco

大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]
Enokojima Art, Culture and Creative Center, Osaka
Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番34号

開館時間:10:00~21:00(ただし展示室は催しによりオープン時間が異なります)

月曜・年末年始(12月29日~1月3日)休館

電話 06-6441-8050 | FAX 06-6441-8151

メール art@enokojima-art.jp

www.enokojima-art.jp



enocoニュースレター 22 2020年7月発行

- | 発行 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター
- | 編集 | 山本佳奈子、高坂玲子(enoco 企画部門)
- | 表紙・特集ページデザイン | 堀口努(underon)
- | 表紙イラスト | 芦野公平
- | イラスト(エノケン、似顔絵) | タダユキヒロ
- | アートディレクション | 後藤哲也(Out Of Office)
- | デザイン | 小池一馬(Kazuma Koike Art&Design)

enocoニュースレターは、enocoが年2回発行する情報誌。
enocoで起こっていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。

——
堀口
enoco利用者さんが表紙にいっぱいおって、ええ感じやわ。
イラストレーターの芦野さんは東京在住の方なんですが、
実は開館当初のenocoにも来られたことがあるそうですよ。
うれしいわ~!ちなみに、どんなきっかけでデザイン始めたん?
元々イラストレーターになりたくて専門学校へ行ったんですけど、
いつのまにかデザイナーになってました。卒業後、デザイン事務所に入ったのですがあまり面白くなくて、自分で
編集・執筆・デザインしてフリーペーパーを作っていました。
初めてデザイン誌に紹介されたのはこのフリーペーパーでしたね。そうやっているうちに、事務所の他の仕事が面白くなって、独立しました。

音楽関係のデザインもやってたって聞いたで?
音楽好きなので、周りに音楽関係の友人も多いです。来日したUSハードコアバンドのレコードやTシャツもデザインしていました。自分は音楽やらないんですが、昔から髪の毛長いので、電車の中で「一緒にスラッシュバンドやらない?」と誘われたこともあります。

面白い人おるんやなあ!今は本のデザインが多いん?
はい。数年前から本のデザインがメインです。出版社は東京が多いので、仕事の7割くらいは東京の仕事です。基本メールと電話でのやりとりなので、うちはコロナ禍の前からリモートワークでした。
先取りやん!ワシも東京の友犬とリモート散歩やってみよ。



22

22号の表紙デザイン: 堀口努(underon) イラスト: 芦野公平

enocoの貸室最前線

大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco] がお届けするニュースレター。今号の特集は、enocoの貸室をご紹介。4階や1階にある展示室の影でひっそり隠れてしまいがちですが、2階や地下1階に、素敵な貸室、あるんです。enocoの貸室を活用されているみなさんの活動も取材させていただきました。

www.enokojima-art.jp

「enocoの展示室は行ったことあるけど、貸室ってなに？ どこにあるん？」

と思われる方は多いのではないでしょうか。実はenocoの2階や地下1階には、ちょっとした集会や講義、習い事やワークショップに使っていただける部屋がいくつかあります。利用予定がないときは施錠しており開放していないので、「部屋を見てみたいけれども今まで見る機会がなかった」という方もおられるかもしれません。

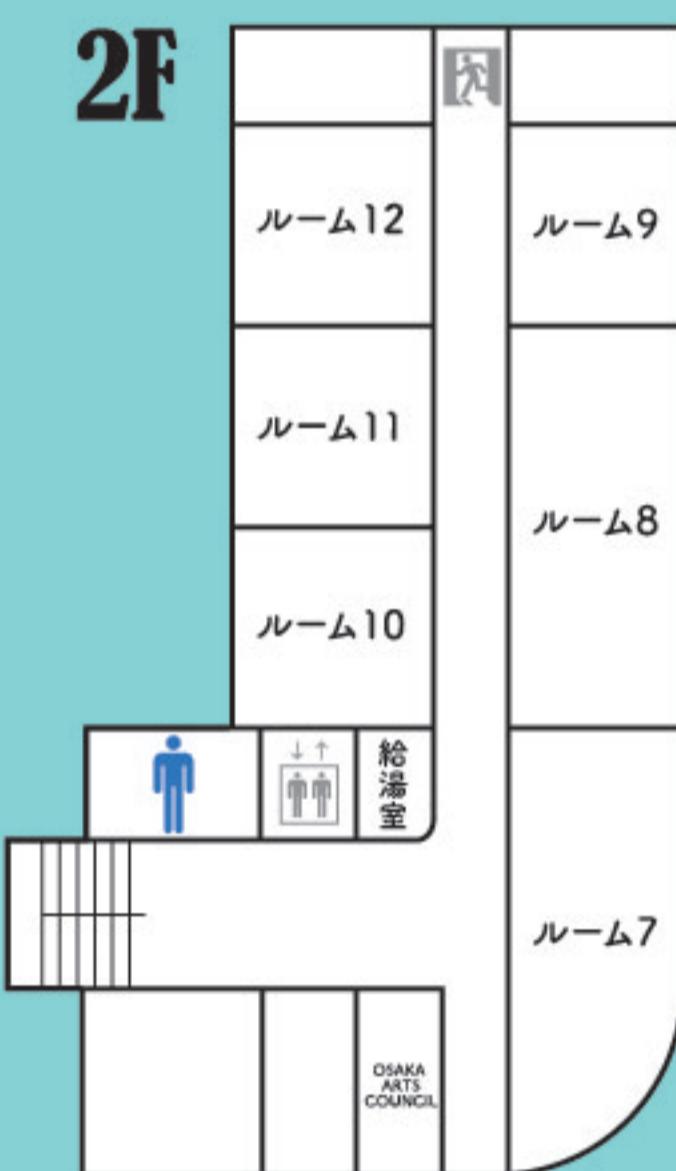
enoco開館から丸8年が経った今、enocoの貸室をあらためてご紹介。そして、それらの貸室を使いこなし、教室やサークル活動などで定期的に利用されている方々に取材させていただきました。



2f
お花も習字も水彩画も！
アトリエ使いできるシンク付きの部屋



2階北側
ルーム 10 33.3m²
ルーム 11 35.3m²
ルーム 12 37.1m²



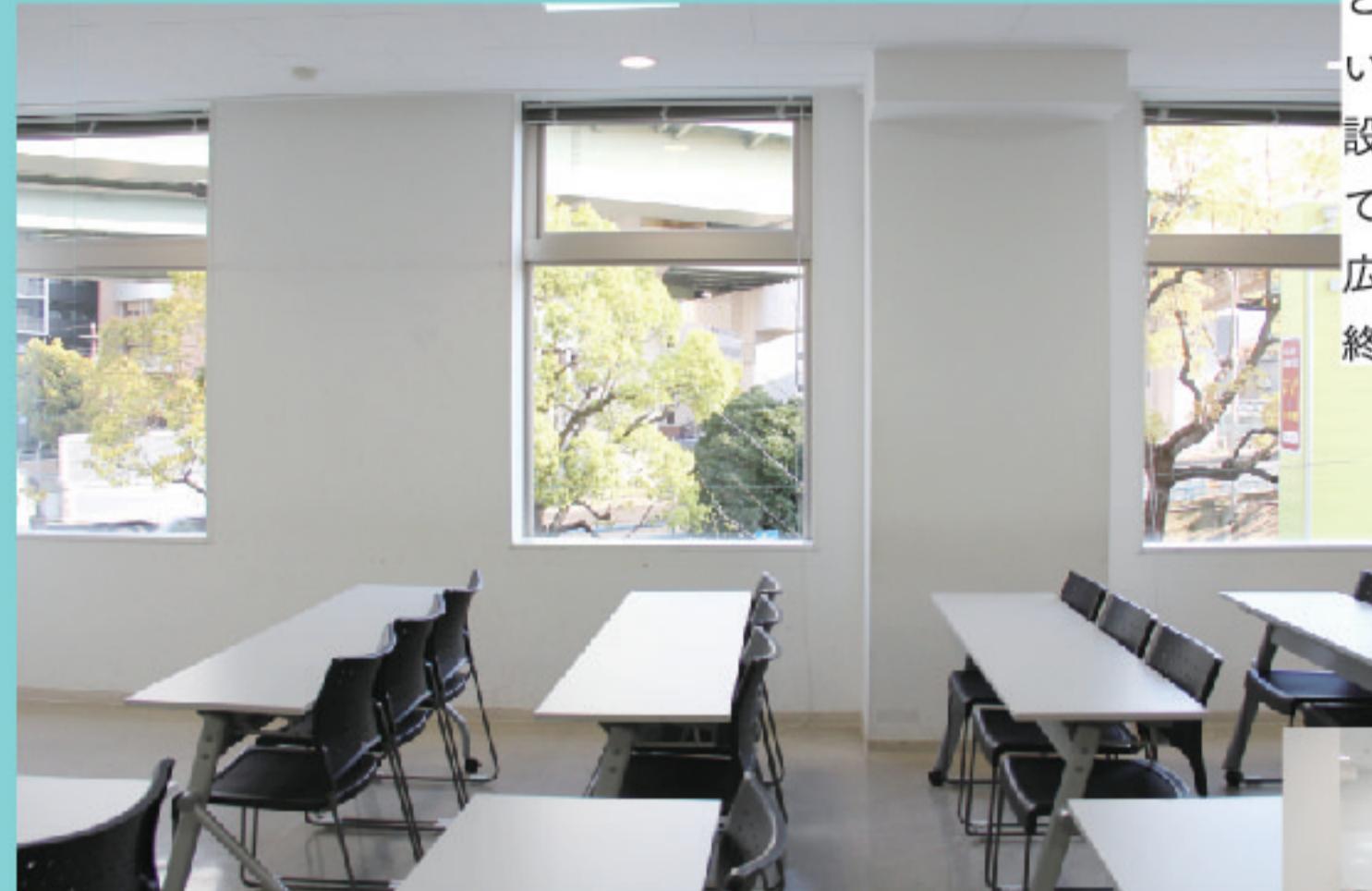
窓が大きいアトリエタイプのお部屋です。窓は北向き、目の前は地上約150メートルの高さでそびえ立つタワーマンション。さぞ見通しが悪かろうと思いきや、enocoとタワーマンションのあいだに綺麗に植え付けされた樹木のおかげで、ちょっとした公園を眺めているよう。集中して制作した後は、ふっと手をとめて窓に目をやり気分転換。小規模だけれど、贅沢なお部屋です。
もちろん、シンクも使っていただけます。（汚れた場合は現状復帰してくださいね。）



この人たちは貸室業務を担当しています！
施設管理部門 中嶋・森田
enoco 館内の設備や備品、すべてを熟知。enocoに集まる人々の文化活動を支えていているのはこの人たちです。

2f
2階南側
ルーム 8 68.5m²

enoco 2階の絶景ポイント！
会議や講義に適した大きめの多目的ルーム



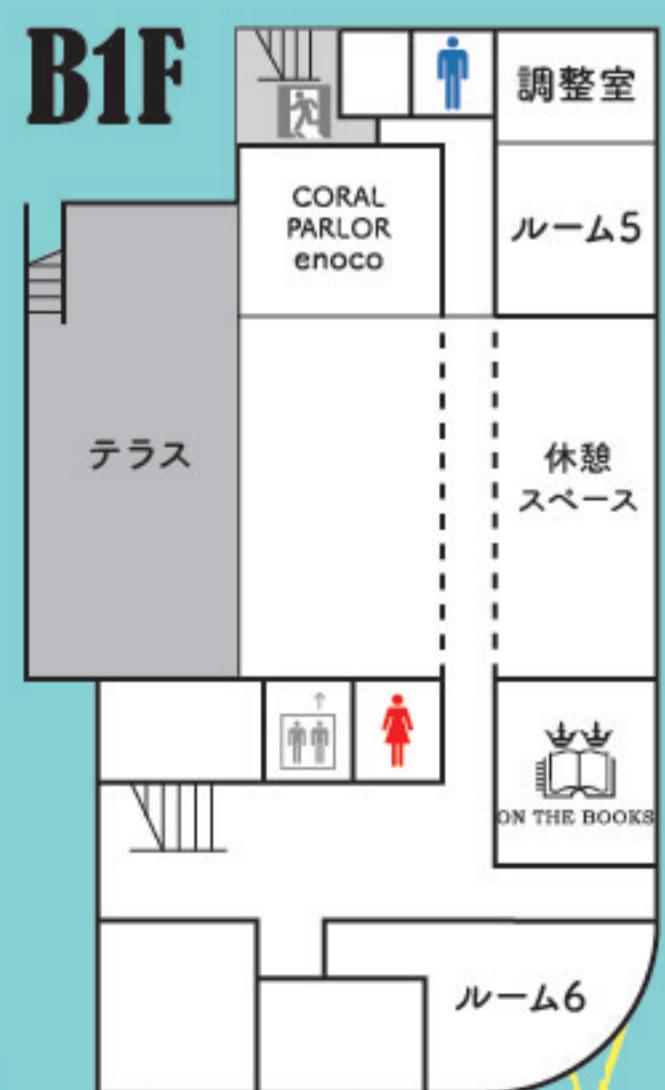
広い会議室タイプのお部屋。会議机が13台。みっちり座れば36席ですが、今は貸室もソーシャル・ディスタンス。定員20名とさせてもらっています（2020年6月現在）。こちらの窓は南向き。窓からの眺めが非常にバラエティに富んでいます。木津川大橋に向かうゆるやかな坂道、阪神高速、大阪メトロ、そしてenocoのおとなり喫茶コンパスさんのカラフルな建物。なかでも特に注目していただきたいのは、大阪メトロ。車両がひよいと顔を出す瞬間（九条行き）と、地下に向かって車両胴体が吸い込まれていくようす（阿波座行き）を、見ることができます。このお部屋で大事な会議をするとしたら、つい窓に目がいって集中できなさそう？ そんなときは、設置されているブラインドで完全に景色をシャットアウトしてくださいね。机と椅子を全て端っこに片付けたら、部屋を広く使ってワークショップや創作作業も可能です。（使用が終わったら、机と椅子は元通りに直してください。）



大阪メトロがこんなにちわ

B1f
地下1階
ルーム 6 49.0m²

あのアール壁を独占！
集中できる、すみっここの部屋



縦に長細い特徴的な部屋。地下に位置するため、ほぼ真っ暗にすることができます。enocoに遊びに来た人が、普通は辿りつかないすみっこに、ひっそりと位置しています。一番の個性は、enoco外観の特徴的なあの曲線を、そのまま独り占めできる仕様になっているところ。とりあえず、この部屋に入ったら、まずあの曲線に沿って歩いてみたくなります。スリスリするも良し、曲線に背中を委ねるも良し。ちなみに、音の反響もとても深く、残響が2、3秒残ります。設置されている時計のカチカチという音をひたすら暗闇で聴きながら瞑想をする、なんていう使い方もできるかもしれません。



次のページでは、enocoの貸室を利用してくださっている方々の活用事例をご紹介します。

フォトスクール とっておき!



水石を粹に楽しむ紳士たちの会

ひとつの石を山脈や家、仏様に見立てたり、美しい紋様を楽しんだり。水石を楽しむ大阪醍醐愛石会の勉強会は、隔月一回開催。昨年11月には2階の3部屋を同時に使いこなし、展示即売会を開催していただきました。

勉強会では石を持ち寄り様々な角度から眺めます。どの部分が何に見えるか、どの川で揚石（※川などから採取されること）されたのか、ワイワイと盛り上がります。瀬田川や貴船川の石はブランド価値が高く、みんなで探石に出かけることもあるそうです。

なんとこの日は女子大生が見学に。若い女性にも人気の水石。大阪醍醐愛石会の方々は初心者にもわかりやすく熱心に水石の奥深さを伝えてくれます。



大阪醍醐愛石会



写真：森川市朗



ル・ブーケ



Case 3

新鮮な生花を贅沢にアレンジメント

enoco ご近所さんの金本先生が開催する少人数制のお花の教室。ご近所だからこそ、届いたばかりの新鮮なお花をたっぷり用意してくれています。生徒さんの忘れ物を「ちょっと家から取ってきますね～」と言って5分ほどで戻ってくる先生に、生徒さんもびっくり！ enoco を落成の時から見てくれている金本先生。enoco 完成時の内覧会で、「よし、ここでお花の教室をやろう！」と決めてくださったそうです。

シンクも十分に活用。お花の挿し方に迷ったら、明るい窓際の台に置いて、ちょっと離れて眺めてみたり。自分でアレンジしたお花を持ち帰ることができるもの、うれしいポイント！

Case 1

実習と座学で技術を磨く写真教室

写真家の米谷昌浩さんと林幸恵さんが講師をつとめる写真教室。enoco 開館当初からご利用いただいています。受講生が実習や撮影ツアーで撮影してきた写真を、米谷先生と林先生がじっくり講評。風景写真やマクロ写真について、構図やバランス、撮影技術などを丁寧にアドバイスしていただけます。受講生どうし真剣にお互いの写真を見て、他者の視点も学びます。

ルーム8は南側に窓がある部屋ですが、enoco 施設管理チーム森田さんお手製の「暗幕ボード」で窓を塞いでいます。真っ暗にすることで、しっかり集中できる空間に。

青紫書院



青紫書院

Case 4

まちの書道教室

書道師範歴54年の福村青紫先生が、enoco で毎週土曜に開催している教室。京町堀からenocoに移って5年目。丁寧に、時に厳しく、そして楽しく指導してくださいます。集中力が続かなくなったり小学生の為に、気分転換のパズルや英語練習シートも用意。

書道では筆のお手入れが大事。シンクがあるのですぐに筆が洗えます。年齢問わず誰でも参加できる教室で、大人は行書や草書にも挑戦。

母子で教室に通っている生徒さんもおられます。実はお子さんのお婆ちゃんも青紫先生の教え子だったので、青紫先生に3世代で師事。教室はいつも生徒募集中です。



大阪石花会



Case 5

極度の集中力でストレス発散！

海外ではロックバランシングと呼ばれ、日本では石花といいはなと呼ばれる、なるべく不思議になるべく面白く石を積み上げる活動。全国に支部をもつ石花会の大坂支部がenocoで活動中。本来は河川のほとりで自然石を積み上げるそうですが、大阪市周辺には石が転がっている川がありませんので、室内で活動中。

この日は紀ノ川で採集してきた石を使って実践。石一つ一つの個性を確認しながら、よく触り、ポイントを決めて立ててみる。集中力を注ぎ、指を離して、見事に立った瞬間！その瞬間の気持ちよさが何とも言えません。そしてすかさずスマホで撮影！石花会大阪支部もサークル仲間を募集中です。



大阪府には文化振興条例 ちゅうめいじゅうせいじだいがあるんや。ほんでこれには「府民それぞれが自主的な文化活動 どんとんやつていこう」って書いてあるねんけど、ここで言う「文化活動」って、生活文化も含んでるねん。enoco はアートアート言うてるけど、どんな文化活動も広い意味ではアートや。文化活動する人は、どんどん enoco 活用しにきてや。ワシが言うのもなんやけど、さすが公共施設。料金もお手頃やで。あと、他にもいっぱい参加者募集中の教室やサークルあるで。詳しくは enoco の貼り紙、見てな！





「これまで」のイベント情報 past events

おおさかアートコモンズ(仮称)オープンミーティング 文化びと図鑑 2020年3月28日(土)

ゲスト(五十音順):梅山晃佑(ワーキングスペース往来 店主)、高橋静香(グラフィックデザイナー/あべのま運営)、多々良直治(Web デザイナー / ディレクター)、中山佐代(舞台企画制作)、mizutama(アーティスト/FIGYA 代表)

「おおさかアートコモンズ(仮称)」は2018年度に立ち上げた、大阪のよりよい文化・芸術のネットワークのあり方を考える場の試みです。文化・芸術支援等を行うアーツサポート関西、大阪アーツカウンシル、おおさか創造千島財団の協力を得ながら、情報や課題を共有する場として運営しています。「オープンミーティング」は年1回の開催で、2019年度は多様な文化的活動が息づく大阪に行き交う「ひと」、そして「暮らし」に焦点をあてました。文化・芸術に関わる「ひと」を、自分たちと同じひとりの生活者として捉え、どう生き、働き、暮らし、何を考えているかを知り、有機的に現実的なネットワークのあり方を考える試みです。

ゲスト同士、ほぼ初対面という座組みでしたが、日々のスケジュール、仕事と家庭の往復、組織と個人の関係、雇用や収入をめぐる問題と奮闘など、具体的な「日常」を共有したことで自然と質問を投げかけ合う時間となりました。みなさん淡々と話されているのが印象的でしたが、そこから日常と地続きの仕事や活動のあり方、それゆえの静かな覚悟や強さを垣間見ることができました。

なお今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からライブ配信で実施しました。この10日後には緊急事態宣言が発令され大阪も対象に入り、「日常」が変容。「淡々とした日常」を今後繰り返すことはできないかもしれません。人とのつながりや共有のあり方も改めて考えることになるはずです。それでも暮らしは続いているし、加齢・転職・結婚・出産育児・介護・病気など、「元に戻れなさ」が生じる時は様々あります。

そういった中での「私はこうする」という話と、そこから地続きの、家庭のこと、仕事のこと、関わる人のこと、まちのこと、芸術のこと、社会のことを共有する「(物理的かつ精神的な)場」や記録のあり方を今後も模索したいと思います。

高坂玲子/enoco企画部門



YouTubeにてアーカイブ配信しています。ぜひご覧ください。
<https://youtu.be/4U7j04hsI2U>



2019年度enocoの学校こどもアート学科 造形コース・しこう実験コース

2019年7月から2020年3月まで開講

※2020年3月21日(土)から4月12日(日)まで両コースの作品展を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。作品展はオンラインに場所を移動して開催しました。

造形コース

2019年度、2期目となったこどもアート学科造形コース(講師:小池一馬、野原万里絵)では、陶土、顔料、日用品、色紙、絵具などの素材を用い、立体造形、ステンシル、コラージュなどの技法を取り組み、また、デザインにも挑戦するなど様々な制作方法で作品づくりと向き合ってきました。残念ながらルーム4で開催予定だった作品展は公開中止となりましたが、記録写真をwebで公開しています。10名程度の少人数で、1回1時間半と短い時間の中、グッと集中して制作に取り組んだこの1年間。個人制作、グループ制作の中で受講生たちがみずからの創造力を存分に活かし作り上げた作品を、ぜひご覧ください。

高橋真理子/enoco企画部門



記録写真はこちらからご覧いただけます。
http://www.enokojima-art.jp/kids_arts2019exhibition



しこう実験コース「なんだこれ?!サークル」

子ども向け連続ワークショップ「なんだこれ?!サークル」(講師:岩淵拓郎)では、「アート」という言葉を一切使わず表現と批評をひたすら実践します。2019年度はゼミ生として大人も参加。最後の振り返り会でゼミ生達に予想外の効果があったことが判明。大人になってからやると怒られそうな「なんだこれ?!」、それなんもしてへんやん!とツッコまれそうな「なんだこれ?!」。それらを仕事終わりに熱心に考え出したゼミ生達は「解放された感覚!」「社畜っぽい考えを脱した!」とのこと。私たちの社会って、いつのまにか固定観念や模範解答の網にがんじがらめになっているのかも……時にはアートという言葉にも。

山本佳奈子/enoco企画部門



なんだこれ?!サークル2019の公式ハンドブックは
こちらからダウンロードいただけます。
(岩淵拓郎氏によるメディアピクニックWebサイトより)
<http://mediapicnic.com/nandakore/files/handbook2019.pdf>



今号に限り、エキシビジョンカレンダー掲載をお休みします。2020年7月~12月の展覧会情報はenocoのウェブサイトをご確認ください。www.enokojima-art.jp

レビュー review

大阪府20世紀美術コレクション展

『ココロヲウツス』

(2020年1月17日～2月8日 enocoルーム4にて開催)

写真家の麥生田兵吾が、「大阪府20世紀美術コレクション」から、制作された時代も方法も異なる作品を選んで、自作と一緒に展示したのが、「ココロヲウツス」展だ。

この展示の軸は、「ウツス」ことだ。作品が収蔵庫からウツろな展示室にウツされて始まり、会期は日めくりカレンダーの数字にウツされる。破ったカレンダーは上皿秤に載せられ、重さを示す針もウツろってゆく。展示空間を、来場者数、気圧、時間、放射能、音、温度、光量などの表現に、刻々とウツし変える計測装置が、作品と併置されている。

麥生田の写真の幾つかは、「enoco」の収蔵庫から見つけてきた、壊れた額に入っている。ガラスは割れていて、半透明の幅広のテープで留めてある。その下の写真を、私たちはこのテープ越しに、またはテープの存在を無視するか、どちらかに意識をウツして見ることを強いられる。やがて、ここに展示されているのは、私たちの眼玉がそれらとぶつかるたびに、考え込んだりためらったり態度を決めたりする「ココロ」の動きを、鏡のようにウツすることで、鋭く見返してくるものばかりだということに、気づく。

会場には、麥生田が展示の各壁面を撮影したタブロイド版の冊子が置かれていた。それを見ると、壁面には色つきの紙テープで囲われた矩形の余白がある。だが実際の展示では、この場所には、各壁面に対応する冊子のページが貼ってあった。そして、冊子の写真の中には、壊れた額に入った麥生田の写真もウツっている。ところが、写真の上の縛割れどめのテープは、そういう意匠であるかのようにしっかりと収まっていて、私たちの目に強いられた葛藤などなかったかのように、記録されている。写真は、私たちのココロなどウツさないのだ。

何かを別の何かにウツす。そのとき、必ずこぼれ落ちるものがある。しかしそれは諦めではなく、そのつどのウツしかたの絶対的な肯定である。この肯定は無根拠だ。だからこそ、写真をウツすことも展覧会をウツとも、何度でも最初からやりなおして、繰り返して、繋いでゆくのだ。

西田博至 にしだ・ひろし

批評家。批評誌『アラザル』同人。現代の美術や映画、文学などを中心に、批評文を書いている。『キネマ旬報』、『ART CRITIQUE』、『ユリイカ』等で執筆。

続・enocoの学校

2019年7月から2020年4月まで実施

2019年度続・enocoの学校7期では、「もぐもぐタイム」という学びを咀嚼する時間を設けた後に、言語化し発表することをワークの柱として立て自ら知識を構成するクリエイティブ・ラーニングの実践を進めてきました。講義内容を受講生各自が言語化することによって、多面的に浮きってきた「ことば」は講師側の気づきになるという発見もあり、より創造的に学ぶ実践の場になったと考えています。

また、続・enocoの学校の卒業制作ともいえる「江之子島実験室」では、これまでの学びを通して得た知見と社会課題解決に向けたアイデアの発表を行いました。本来であればenocoで実施するところを、本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインビデオ会議ツールを用い実施されました。

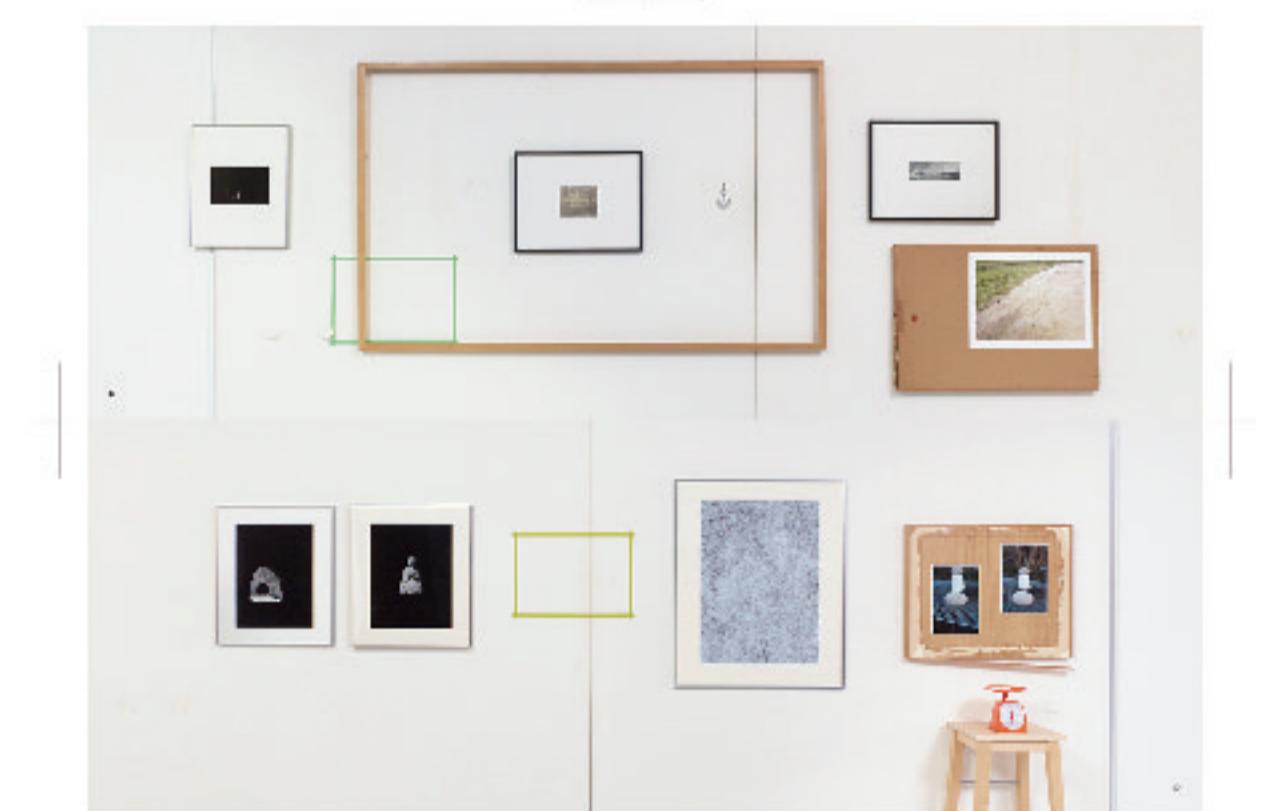
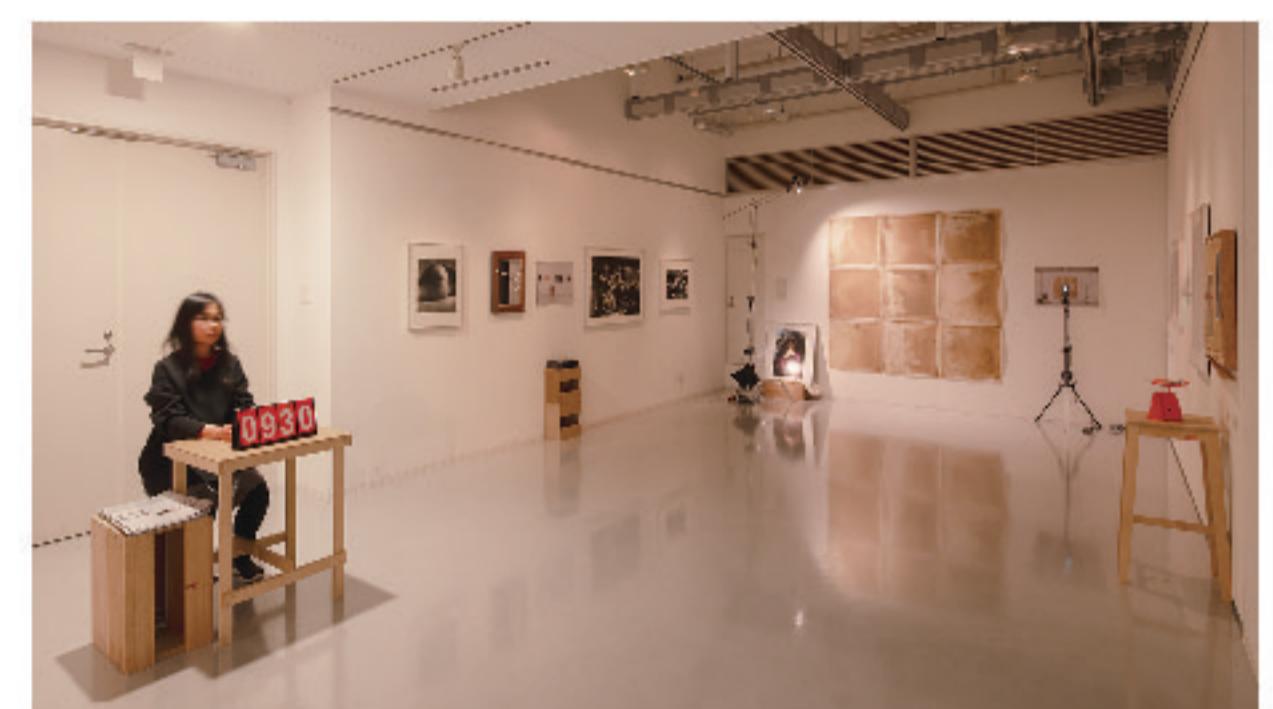
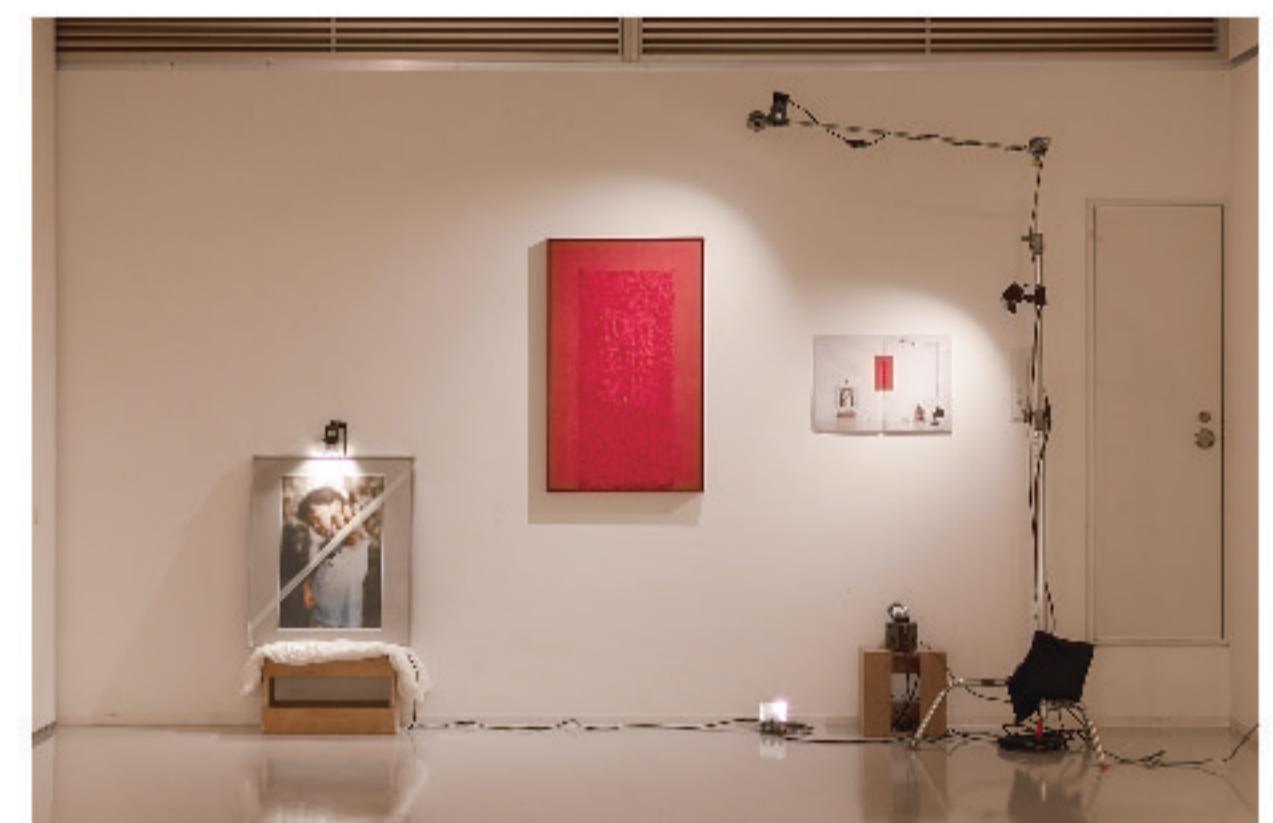
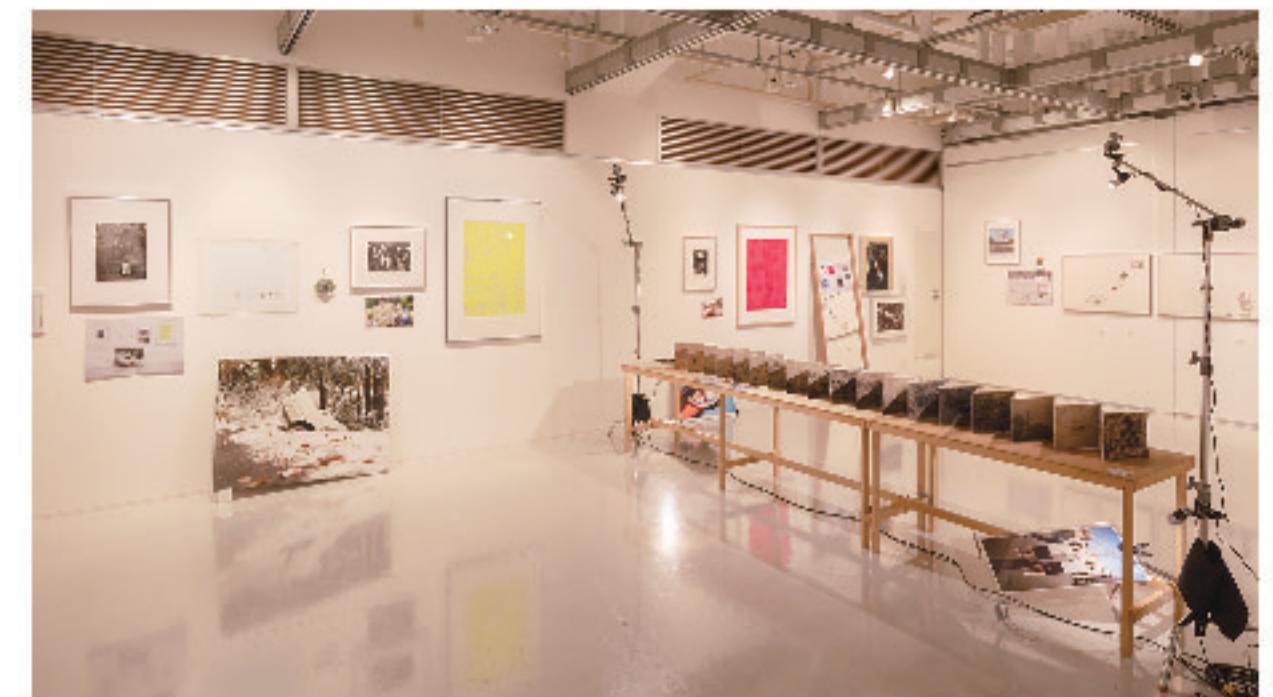
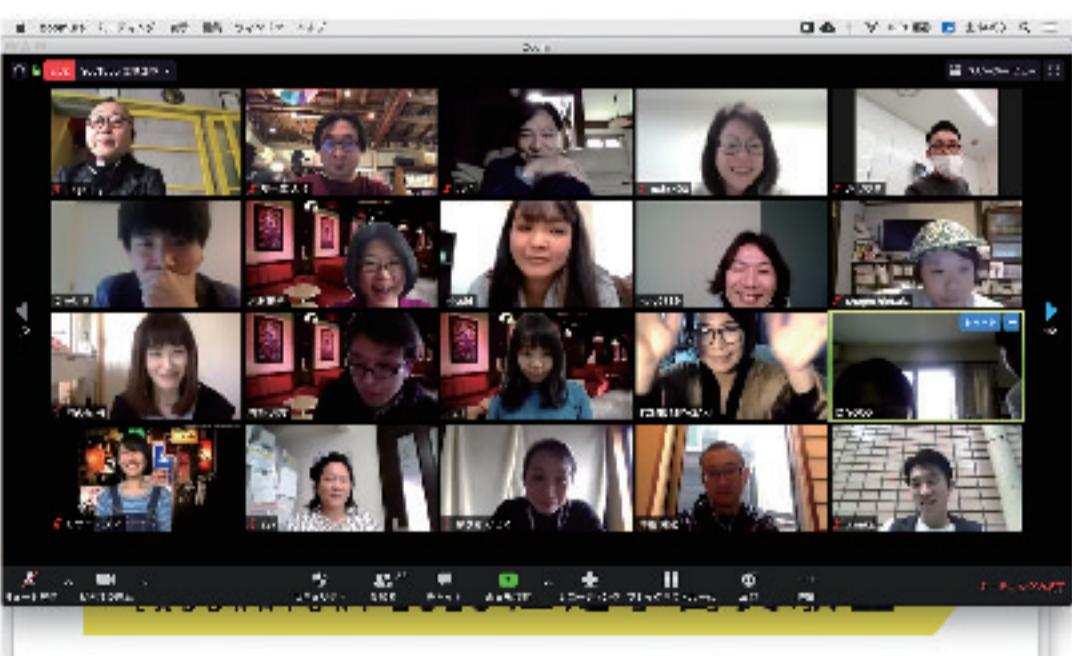
7期生は受講生自身の課題である「出会いの閉塞感」と「学びの偏り」に焦点をあて、「偶然の出会いと学びで人と人をつなぐ場づくり」を考案。スナックの手法を用いつつ学びの場の創出をする「どこでもスナック（ヨリミチ）」プロジェクトのアイデアを公開しました。スナックのファシリテーター+キュレーターである「ママ」のもと、フードやドリンク、さらには学びを持ち寄ることで、コンパクトかつスピーディーに、偶然の出会いと共創をめざすものでした。見通しの立たない状況で選ばざるを得なかったオンラインでの実施でしたが、このことが翻って、クリエイティビティを増幅させました。

続・enocoの学校は本年度も実施しますが、大きく形態を変えて次のフェーズへ移行することになりました。詳細はウェブサイト等で公開します。

古谷晃一郎／enoco企画部門

続・enocoの学校とは：

enocoでは文化芸術を通して異なる者や分野をつなぐコーディネーターを育成する必要があると考えています。そのため 「enocoの学校」を立ち上げ、既成概念にとらわれない自由で柔軟かつ創造性豊かな発想や思考を学ぶ人材育成プログラムを実施してきました。様々な分野で社会課題を取り組むトップランナーたる実践者が、今まさに使っている思考法やツールを開示し、シェアし、そして受講生同士が互いに学びあう、より実践的な学びの場として開講しました。



撮影：麥生田兵吾



enocoのひとびと people



コロナ禍でenocoもテレワーク。積ん読消化だ!と意気込みましたが、息子(保育園児)同伴テレワークは、仕事をするごはんつくる仕事する怒る片付けるごはんつくる...。積ん読が持ったのは言うまでもありません。そんな中、大学の同期が書いた積ん読推奨本が到着。そしてもちろん積む...。(企画部門 高坂希子)



創造思考の必要性をずっと前から提唱してきたが、今は否応なしに患者の転換を迫られている。創造思考とは、断ち切る、壊す、そして生み出すこと。創造思考のベースはBackcasting、過去の延長線上でモノ語りを続けるのではなく未来を見据え、何をすべきかをデザインすること。そこには今まで以上にアーティストの存在が必要とされるであろう。(館長 甲賀雅章)



ドーナツ、パンケーキ、タピオカの次は、ベーグルだと思う。少なくともマイブームでは、ベーグルがはじまります。ハムとか、はさんじゃったりして。(プラットフォーム部門 渡本庄太郎)

大阪府20世紀美術コレクション

1974年から2001年にかけて大阪府が収集した「大阪府20世紀美術コレクション」。総数およそ7900点の中から、enocoスタッフのおすすめ作品をご紹介します。



《赤いマント》
浅野竹二(1900-1999)
1980
36.5cm×24.2cm 木版・紙

この一点!

enocoで実施している「コレクション・キャラバン」事業では、大阪府20世紀美術コレクションの作品を学校の教室で展示し、さらには対話型鑑賞のプログラムも実施しています。

「コレクション・キャラバン」でのひとコマ 《赤いマント》編

日時: 2019年11月5日
場所: 豊中市立小曾根小学校

6年2組のみんなと、ナビゲーターを務めたenoco古谷晃一郎による対話型鑑賞の一例をご紹介します。なお、コレクション・キャラバンでは作品名や作家名、作品が制作された年などの情報を事前に伝えずに、自由に鑑賞してもらいます。

古谷: この絵で見つけたこと、感じたこと、考えたことがある人、手を挙げて!

Aさん: 体の服が全部カクカクしてる。マントみたいなところも、スカートみたいなところも、首のところも。

Bくん: 首のまわり、シャンプーハットみたい。シャンプーハットで首が締まって、頭に血が上っているように見えてきた。

古谷: 顔のあたりは確かに赤っぽいね。目の周りとか。

Cくん: 怒ってるんかな?睨んでるんちゃうか?

古谷: この目が睨んでいるみたい?ということは、楽しくはなさそう?

Dさん: 鳥が死んだから、火葬して、お花あげてる。

みんな: おおーっ!

古谷: さっき、この右側の人が不機嫌に見える、っていう話も出たけど、もしかしたら(鳥が死んで)悲しいかもしれないへん、ってことかな。

Cくん: でも鳥の目が開いてるなあ。死んだら目閉じるんちゃうか?

古谷: 怒ってるのかな?っていう意見もあったけど「鳥が死んじゃって、お花をあげてる」と聞くと悲しそうに見えるよね。どんどん絵の見え方、印象が変わってきたと思います。enocoでは、こんな風にみんなで対話しながら絵を見ることを「対話型鑑賞」と言っています。

大阪府20世紀美術コレクション貸出事業実施中。公共空間等での展示にご活用ください。詳しくはenocoまでお問い合わせください。



高橋 真理子
enoco企画部門



enocoに関わったりenocoから離れたり。enocoをきっかけとしながらもあらゆる場で自律して活動しているメンバー「ボッセ」。このコーナーでは、ボッセの一人一人に活動内容やボッセになったきっかけを聞いてみます。



初回は、濱野友希(はまのゆき)さん。ボッセメンバーで結成されたチーム「ミサキノスバイス」として活躍中。ミサキノスバイスは、岬町で町内外の人達と料理することでコミュニケーションを図り、岬町の“関係人口”増加に繋げることを目的として活動中。

— enocoに関わりをもつようになったきっかけは?

enocoの貸室を使ったときに「enocoの学校」を知り5期生として学びました。当時、岬町職員の方が同期にいて、岬町の人口減少問題などを初めて知ったんです。

— 今はミサキノスバイスとして岬町から発信する活動をしていますよね?

はい。enocoの学校同期生と「何かしたいね」と集まって食事に行くことに。みんなスパイスクレーが好きという共通点に気づき「じゃあ岬町の食材でスパイスクレーを作ってみようか」と。それがミサキノスバイスの始まりでした。

— 普段のお仕事と生活とミサキノスバイス、どんなバランスでやっていますか?

忙しい時は、仕事以外の生活時間をほぼミサキノスバイスに注ぎ込んでいます。大阪市内在住ですが、自然いっぱいの岬町へ週末移住を計画中です。岬町に行くと、食材や面白い人、モノを常に探し歩いています。

ミサキノスバイスのWebページはこちら
<http://misakinospice.hacca.jp/>



オン☆ザ☆レビュー

enoco地下1階の古書店、ON THE BOOKS 米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・カルトまで、多彩なラインナップの中から、今の気分をあらわす1冊をご紹介いただきます。



SUPER ART GOCOO
スーパー・アート・ゴー
バルコ出版 1979~1981年

1979~81年の約3年間にわたり、バルコ出版から刊行されたアート雑誌です。アートといつても「クリエイティブ」に注視していますので、美術からサブカルまで幅広くフォローしています。まさに当店が目指さんとする内容です。横尾忠則、糸井重里、三宅一生、YMOなど、錚々たる顔ぶれの対談やレポートが毎号にわたって掲載。でも誌面のノリは軽快な80s節。発売時期は所謂バブル前夜になるのですが、来るべき時代を先読みしたバルコ出版、スゴイデスネ!全号揃いではありませんが、結構な量が入荷しました。各号600円で店頭販売のみになります。

ON THE BOOKS
営業時間: 11:00~20:00(月曜日定休)
www.on-the-books.info

米田 雅明
ON THE BOOKS 店長

